

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
富士リハビリテーション専門学校	平成17年3月25日	学校長 内田 成男	〒417-0061 静岡県富士市伝法2527-1 (電話) 0545-55-3888				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人森島学園	平成13年3月27日	理事長 森島 康之	〒434-0038 静岡県浜松市浜北区貴布祢232-3 (電話) 053-585-1333				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士		高度専門士		
医療	医療専門課程	理学療法学科	平成19年文部科学省 告示第20号		—		
学科の目的	豊かな人間性と発想力を備えたリハビリテーションのプロフェッショナルを育成。 地域のリハビリテーション医療を支える理学療法士の養成。						
認定年月日	平成 27 年 2 月 25 日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時間数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3,045時間 (121単位)	1,680時間 (84単位)	555時間 (19単位)	810時間 (18単位)	0時間 (0単位)	0時間 (0単位)
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
180人	162人	0人	10人	19人	29人		
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1学期： 4月1日 ～ 9月20日 ■ 2学期： 9月21日 ～ 3月31日 ■ 3学期： 		成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成績表 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ■ 成績評価の基準・方法 定期試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して成績評価を行う。 成績はA,B,C,Fの4段階で、C(60点以上)以上が合格となる。 なお、授業出席時数が所定の授業時間の2/3(臨床実習においては3/4)に満たない場合は成績評価を受けることはできない。			
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学年初： 4月1日 ■ 夏季： 8月1日～8月31日 ■ 冬季： 12月25日～1月7日 ■ 学年末： 3月21日～3月31日 		卒業・進級条件	進級においては、当該学年で開設している科目を全て合格すること。 卒業においては、在籍学科で開設している全ての科目を合格すること。 上記の基準をもって判定会議で協議し、学校長が認定を行う。			
学修支援等	<ul style="list-style-type: none"> ■ クラス担任制： 有 ■ 個別相談・指導等の対応 学業不振、学校の規則に適応できない、などが長期欠席の原因になりやすい。個別の学習指導や面談など行い、原因の解消に努める。保護者への連絡も行い、家庭での状況を把握しつつ対応する。臨床心理士による学生相談の設置		課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ 課外活動の種類 新入生宿泊セミナー 市民マラソンのコンディショニングブース協力、ボランティア活動 等			
				<ul style="list-style-type: none"> ■ サークル活動： 有 サッカー部、野球部、写真部 ボランティアサークル、バスケットボール部、バレーボール部、ダンス部 等			

就職等の状況 ※2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主な就職先、業界等 (平成30年度卒業生) 富士整形外科病院、静岡リハビリテーション病院、富士市立中央病院、聖隷沼津病院 他29施設 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国家資格・検定/その他民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和1年5月1日時点の情報) <table border="1"> <tr><td>資格・検定名</td></tr> <tr><td>理学療法士国家試験受験資格</td></tr> <tr><td>種類</td></tr> <tr><td>②国家資格・検定のうち修了と同時に受験資格を取得するもの</td></tr> <tr><td>受験者数</td></tr> <tr><td>40名</td></tr> <tr><td>合格者数</td></tr> <tr><td>36名</td></tr> </table>	資格・検定名	理学療法士国家試験受験資格	種類	②国家資格・検定のうち修了と同時に受験資格を取得するもの	受験者数	40名	合格者数	36名
	資格・検定名									
	理学療法士国家試験受験資格									
	種類									
	②国家資格・検定のうち修了と同時に受験資格を取得するもの									
受験者数										
40名										
合格者数										
36名										
<ul style="list-style-type: none"> ■ 就職指導内容 <p>学生の希望に沿った業務内容の施設を紹介。面談、小論文指導。</p>	主な学修成果 (資格・検定等) ※3									
<ul style="list-style-type: none"> ■ 卒業生数 40 人 ■ 就職希望者数 36 人 ■ 就職者数 36 人 										
<ul style="list-style-type: none"> ■ 就職率 100 % ■ 卒業者に占める就職者の割合 90 % ■ その他 (任意) <ul style="list-style-type: none"> ・進学者数 0 名 ・その他 <p>(平成30年度卒業者に関する令和1年6月時点の情報)</p>										
中途退学者の現状	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中途退学者 10 名 ■ 中退率 6.80 % <p>平成30年4月1日時点において、在学者 147 名 (平成30年4月1日入学者含む) 平成31年3月31日時点において、在学者 137 名 (平成31年3月31日卒業者含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中途退学の主な理由 学業不振、学生生活への不適合、進路変更、経済的理由、病気 ■ 中退防止のための取組 個別の学習指導、面談 (個人・保護者)、カウンセリング、補習、学費相談 (提携教育ローン、分納相談 等) 初年次教育 									
経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 入学金優待制度 本校卒業生、在校生の家族 (配偶者、兄弟姉妹など) が入学する際に優遇される制度 									
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 遠隔地サポート制度 本校が指定する遠隔地に在住、または遠方のため下宿を伴う学生を対象に月額3千円を補助。対象者はJR又は東名バスの公共交通機関を利用する者に限る。 									
	<ul style="list-style-type: none"> ■ スカラシップ・チャレンジ 出願時にスカラシップ・チャレンジで受験をし、学力・人物ともに優秀な学生にスカラシップ (特別給付金) を給付する制度。 									
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成績優秀者スカラシップ 1年次、または2年次の学業成績が優秀、かつ人物に優れた学生を進級時に表彰し副賞としてスカラシップ (特別給付金) を給付。 									
第三者による学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間の評価機関等からの第三者評価： 有 <p>https://www.morishima.ac.jp/fuji/introduction/estimation/</p>									

当該学科のホームページURL	URL : https://www.morishima.ac.jp/fuji/physiotherapy/
----------------	---

(留意事項)

1. 公表年月日 (※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況 (※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

(3) 上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果 (※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
<p>(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針</p> <p>理学療法士養成は、実際の患者さんに検査・治療を行う授業（臨床実習）が不可欠なため、企業等（臨床実習施設である病院等）との連携が必要となる。教育課程の編成においては、主に臨床実習の授業内容について企業等の意見を取り入れることを基本方針とし、教育課程編成委員会に臨床実習施設から委員を招聘している。</p>
<p>(2) 教育課程編成委員会等の位置付け</p> <p>理学療法分野に関する企業、団体等との連携体制を確保し、授業科目の開設、その他の教育課程の編成を行うために、「教育課程編成委員会」を設置する。教育課程編成委員会構成員は学校法人森島学園と企業関係者等の外部役員から成るものとする。互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。年2回の会議を開催し、学校側から議題を提案し、企業等から意見・要請を受け、それを生かした実践的かつ専門的な職業教育が主体的に実施されるよう取り組んでいる。</p>

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿	平成30年4月1日現在
-----------------------	-------------

名 前	所 属	任 期	種 別
和泉 謙二	公益社団法人静岡県理学療法士会 会長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	①
山中 良二	富士いきいき病院 リハビリテーション部 部長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	③
内田 成男	富士リハビリテーション専門学校 学校長 ※委員長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	
宮下 正好	富士リハビリテーション専門学校 教務部長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	
市村 真樹	富士リハビリテーション専門学校 学生担当課長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	
植田 英則	富士リハビリテーション専門学校 理学療法学科長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	
赤岩 龍士	富士リハビリテーション専門学校 主任 ※司会	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1 企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年 2 回 （6月、10月）
（開催日時（実績））

平成30年度

第1回 平成30年6月20日（水） 18:00 ～ 19:00
第2回 平成30年10月17日（水） 18:00 ～ 19:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1. 2020年指定規則改訂に向けた、カリキュラム改訂案を議題として提案。
新科目をどの学年で開講することが効果的であるか。臨床実習では地域の体験をどのように組み込ませていくか
2. 臨床実習の新たな対応 指導者－学生間、学生－学生間のSNSを利用したトラブル防止策。
臨床実習でクリニカルクラークシップを更に進めるための、実習中の課題を検討する。
3. 退学率を下げるための、更なる試みを今後検討したい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の患者さんに検査・測定・治療を実施できることを目的とするため、全ての授業を校外で行うことを基本方針とする。校外での実習となるため、各実習地に指導教員（臨床実習指導者）の選出を依頼し、その臨床実習指導者が学生の指導を行う。臨床実習指導者および実習地は、厚生労働省の基準を満たしていることを選定の条件としている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

1～3年次各学年で企業等と連携して校外実習となる臨床実習を実施。毎年3月に臨床実習指導者会議を開催し、臨床実習の具体的な進行方法を確認。学生指導法について年2回の臨床教育研修会を開催し、連携を強化している。

（3）具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を見学、体験する。実際に病院や施設などの理学療法士が働いている現場で学ぶことにより、職業に必要な知識・態度を実感し、身につけることを目的とする。	介護老人保健施設ききよの郷、富士宮中央クリニック、静岡市立清水病院、中伊豆リハビリテーションセンター、新富士病院、共立蒲原総合病院 ほか43施設
臨床実習Ⅱ	臨床実習指導者のもと、検査・測定を中心とした理学療法の基本技能の実践を行う。基本的な技術の習得と、患者さんへの接し方を習得するのが目的となる。	介護老人保健施設 みゆきの苑、山梨整形外科、富士市立中央病院、熱川温泉病院、湖山リハビリテーション病院 ほか37施設
臨床実習Ⅲ	臨床実習Ⅱの内容に加え、基本的な治療の実践まで行う。技術の習得とともに、患者さんの問題点の分析・治療計画の立案など、判断能力の習得も目的とし、理学療法士としての総合的な能力を構築していく。	ないとう整形外科クリニック、沼津市立病院、静岡医療センター、静岡リハビリテーション病院、富士いきいき病院、富士宮市立病院 ほか前期36施設・後期36施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員としての教育力向上、理学療法士としての治療技術向上、この2点を目的として研修活動を行うことを基本方針とする。

教育力向上については、全国リハビリテーション学校協会主催の教育研究大会への参加を、理学療法士としての技術向上については、臨床研修（週1回）実施や日本理学療法士協会主催の学術大会等への参加を奨励している。また、新任教員にはPT・OT・ST養成施設教員等長期講習会の受講を義務付け、全教員が基本的な教育スキルを習得できるようにしている。これら研修活動は、学内で規程を設けそれに則って学科長が年間の計画を策定し、実施している。

その他の活動として、学内研修・法人内姉妹校との合同研修を行っている。いずれもFD活動の一環であり、FD委員会が企画して実施している。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1. 臨床研修（週1回）

各教員の専門領域での臨床実践のために、臨床施設に依頼し、研修継続

2. 学術研修

第53回日本理学療法学術研修大会 植田英則・赤岩龍士・大沼賢洋・片平美紀・佐藤梢

第22回静岡県理学療法士学会 赤岩龍士・三田久載・大沼賢洋・片平美紀・佐藤梢

第6回日本運動器理学療法学会学術大会 大沼賢洋

第7回理学療法教育学会 三田久載

第7回アスレティックトレーニング学会 赤岩龍士

第16回日本神経理学療法学会 三田久載

平成30年度認定理学療法士研修会 赤岩龍士

日本理学療法士協会スポーツ理学療法研修会 赤岩龍士

予防理学療法研修会 大沼賢洋

認知神経リハビリテーション学会 三田久載

全国障害者スポーツ大会 佐藤梢

認知神経リハビリテーション学会 スペシャルセミナー 三田久載

認知神経リハビリテーション学会 アドバンスコース 三田久載

②指導力の修得・向上のための研修等

PT・OT・ST養成施設教員等長期講習会参加

第31回教育研究大会・教員研修会 渡邊祥子

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1. 臨床研修（週1回）

各教員の専門領域での臨床実践のために、臨床施設に依頼し、研修を実施している。

2. 学術研修

第54回日本理学療法学術研修大会

第23回静岡県理学療法士学会

第7回日本運動器理学療法学会学術大会

日本スポーツ理学療法学会

第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会

②指導力の修得・向上のための研修等

PT・OT・ST養成施設教員等長期講習会参加

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ・専修学校における学校評価ガイドライン及び本校学則第4条に基づき、教育、組織及び運営並びに施設および設備等の状況を明確化する。
- ・本校自己点検評価の結果を基本として、学校関係者評価委員会の中で学校評価を実施する。
- ・本校の現状について、外部へ適切に公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像等
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果

(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	なし

※ (10) 及び (11) については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・ 学修成果について : 卒業生の社会貢献の状況の把握、公表。
- ・ 学生の募集と受け入れについて : PTあるいはOTに特化したオープンキャンパスの企画。
- ・ 法令等の遵守について : ハラスメントに関する規定の作成。

（４）学校関係者評価委員会の全委員の名簿		平成31年4月1日 現在	
名 前	所 属	任 期	種 別
廣瀬 真人	富士整形外科病院	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	企業等委員
森 雄司	静岡医療センター／富士リハビリテーション専門学校 同窓会 会長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	卒業生
澤田 和也	介護老人保健施設ききよの郷	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	企業等委員
置塩 明美	富士リハビリテーション専門学校 後援会 副会長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	後援会
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 （例）企業等委員、PTA、卒業生等			
（５）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期			
URL : https://www.morishima.ac.jp/fuji/			
5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係			
（１）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針			
情報提供はホームページ、スクールガイドを利用して公表 学校関係者評価委員には学校自己評価報告書等を資料として配布			
（２）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目		
（１）学校の概要、目標及び計画	学校紹介		
（２）各学科等の教育	学科紹介		
（３）教職員	教員紹介		
（４）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育		
（５）様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ・課外活動		
（６）学生の生活支援	学生サポート制度		
（７）学生納付金・修学支援	学費・入学金サポート・優待制度		
（８）学校の財務	情報公開（財務状況）		
（９）学校評価	情報公開（学校評価報告書）		
（１０）国際連携の状況	なし		
（１１）その他			
※（１０）及び（１１）については任意記載。			
（３）情報提供方法 : ホームページ			
URL : https://www.morishima.ac.jp/fuji/			

	フリガナ	ホリケ ヒデヒコ	所属部署	事務局
	氏名	堀池 英彦	役職名	事務長

事務担当責任者	所在地	〒417-0061 静岡県富士市伝法2527-1		
	TEL	0545-55-3888	FAX	0545-55-3889
	E-mail	fuji@fj.morishima.ac.jp		

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科) 平成 30 年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報統計科学	コンピューターの使用方法を学ぶ。統計の考え方を身につける。	1 前後	60	4	○			○		○		
○			心理学	認知、思考、行動などにおける心理の課程を学ぶ。	1 前	30	2	○			○		○		
○			科学哲学	リハビリテーションと科学哲学の関係を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
○			健康科学	健康と運動について学ぶ。心肺蘇生法とAEDの知識と技術を習得する。	1 前後	30	1	○	△		○				○
○			英語 I	リハビリテーションに必要な医学英語（用語）を学ぶ。	1 前	30	2	○			○				○
	○		英語A	医療英語論文を読解する手段を知る。	1 後	15	1	○			○				○
	○		英語B	リハビリテーションに必要な医学英語と簡単な英会話を学ぶ。	1 後	15	1	○			○				○
	○		スポーツ科学	アスレティックリハビリテーションについて学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○	
	○		福祉環境論	脳血管障害、関節リウマチ、脊髄損傷に対する住環境整備の方法を理解する。	2 前	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			解剖学Ⅰ	骨、筋、脊髄神経の構造を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
○			解剖学Ⅱ	解剖学の総論および、神経系と内臓諸器官の構造を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			解剖学実習	四肢の骨、骨格筋の構造と基本的な作用を学ぶ。	1前後	60	2		○		○		○		
○			生理学	運動器系、神経系、呼吸・循環系、消化器系、泌尿器系、内分泌系などの働きを理解する。	1前	60	2	○			○			○	
○			運動学	人体の運動を、関節・筋・動作・歩行などの面から学ぶ。	1前後	60	2	○			○		○		
○			運動生理学実習	人の体力を生理学的な見地（エネルギー代謝の面から）理解する。	1後	30	1		○		○		○	△	
○			人間発達学	人の生涯を通じての身体的、精神的、社会的な発達を理解する。	1後	30	1	○			○		○		
○			人体構造学	人体の構造を、植物機能・動物機能・運動機能に分けて学び、習得する。	3前後	30	1	○			○		○		
○			病理学	疾病の病因を理解する。	1後	60	2	○			○			○	
○			臨床心理学	患者の心理の理解と、医療従事者としての対応を学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
○			内科学Ⅰ	呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患を学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
○			内科学Ⅱ	代謝疾患、血液疾患、内分泌疾患、膠原病を学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			神経内科学	神経疾患の症候、脳血管障害、神経難病を学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
○			整形外科学Ⅰ	骨折、末梢神経損傷、靭帯損傷、熱傷を学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
○			整形外科学Ⅱ	脊椎、脊髄の疾患、炎症性疾患を学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
○			小児科学	小児神経疾患、発達障害、循環器障害を学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○			精神医学Ⅰ	器質性精神障害、てんかん、統合失調症を学ぶ。	1前	30	1	○			○			○	
○			精神医学Ⅱ	気分障害、神経症性障害、精神遅滞、精神障害のリハビリテーションを学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
○			脳神経外科学	脳神経外科的な検査と治療、脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷、脊椎疾患を学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
○			リハビリテーションと障害	リハビリテーション対象疾患と障害について理解する。	3前後	30	1	○			○		○		
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの理念、歴史、概念を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
○			社会福祉概論	障がい者、高齢者、子どもに対する社会福祉制度を理解する。	1後	30	2	○			○		○		
○			基礎理学療法学	理学療法の基礎科学（運動器・神経系・呼吸・循環・代謝）を理解する。	1前後	60	4	○			○		○		
○			基礎理学療法学実習	理学療法の基本技能（触診・介助・バイタルサインの測定）を習得する。	1前後	60	2	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			理学療法研究	研究の基本的な手法を学ぶ。	3前	30	1	○			○	○			
	○		理学療法研究演習	研究の基本的な手法を踏まえ、研究を実践する。	3後	30	1	○			○	○			
	○		基礎理学療法学Ⅱ	理学療法の基礎科学、基本的な検査・治療方法の理論を理解する。	3後	30	1	○			○	○			
○			機能診断学	理学療法場面で行う検査・測定を総論的に学ぶ。	1後	30	2	○			○	○			
○			運動機能評価学	運動機能（関節可動域、筋力）の検査・測定方法を理解する。	2前	30	2	○			○	○			
○			運動機能評価学実習	運動機能（関節可動域、筋力）の検査・測定技能を習得する。	2前	60	2	○			○	○			
○			神経機能評価学	神経症候と神経学的所見の取り方を学ぶ。	2前	30	2	○			○	○			
○			神経機能評価学実習	神経症候に対する検査・測定技能を習得する。	2前	30	1	○			○	○			
○			動作分析学実習	基本動作（起き上がり、歩行等）の観察、表現方法を実習を通して学ぶ。	2後	30	1	○			○	○			
○			理学療法評価学Ⅰ	仮想症例に対して、検査を選択・判断し実践する。	2後	45	1	○			○	○			
○			理学療法評価学Ⅱ	仮想症例についての報告書（レポート）を作成する。	2後	30	1	○			○	○			
○			運動療法学	関節可動域運動、筋力増強運動の理論・方法を学ぶ。	2前	30	2	○			○	○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			運動療法学実習	関節可動域運動、筋力増強運動の基本的な技能を習得する。	2前	30	1	○			○				
○			中枢神経疾患理学療法学	脳血管障害片麻痺に対する理学療法を学ぶ。	2前後	60	4	○			○		○		
○			神経・筋疾患理学療法学Ⅰ	脊髄損傷に対する理学療法を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
○			神経・筋疾患理学療法学Ⅱ	神経難病、筋疾患に対する理学療法を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
○			骨・関節疾患理学療法学	骨折、変形性関節症、靭帯損傷、熱傷、関節リウマチの理学療法を学ぶ。	2前後	60	4	○			○		○		
○			骨・関節疾患理学療法学実習	骨折、変形性関節症に対する基本的な治療技能を習得する。	2前後	60	2	○			○		○		
○			小児理学療法学Ⅰ	正常な知的身体的発達と発達障害に対する理学療法を学ぶ。	2後	15	1	○			○		○		
○			小児理学療法学Ⅱ	脳性麻痺、小児疾患に対する理学療法を学ぶ。	3前	15	1	○			○		○		
○			内部疾患理学療法学	呼吸器疾患、心疾患、糖尿病に対する理学療法を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○	△	○
○			内部疾患理学療法学実習	呼吸器疾患、心疾患、糖尿病に対する基本的な検査・治療技術を学ぶ。	2後	30	1	○			○		○		
○			日常生活活動学	日常生活活動の構造と評価方法を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○			日常生活活動学実習	基本動作の構造を理解し、基本的な介助技能を習得する。	2前	30	1	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			物理療法学	温熱療法、電気刺激療法、牽引療法、寒冷療法の理論を学ぶ。	2後	30	2	○			○	○			
○			物理療法学実習	温熱療法、電気刺激療法、牽引療法、寒冷療法の方法を習得する。	2後	30	1		○		○	○			
○			義肢装具学	下肢装具、上肢装具、体幹装具、義足（下腿、大腿）を学ぶ。	2後	60	2	○			○	○			
○			症例検討	整形外科疾患、中枢神経疾患に対するケーススタディの方法を学ぶ。	3前後	30	1	○			○	○			
○			臨床理学療法学	各種疾患に対し、検査・測定・治療法方法を選択、判断する能力を養成する。	3前後	60	2	○			○	○			
○			臨床理学療法学実習	応用的な理学療法技術（徒手療法 など）を体験し、理解する。	3前後	60	2		○		○	○	△	○	
○			地域リハビリテーション学	地域社会における理学療法士の役割を理解する。	2前	30	2	○			○	○			
○			生活環境論	障害者に対応した住宅改修と関連法規を学ぶ。	3前	30	2	○			○	○			
○			臨床実習Ⅰ	医療従事者として適切な行動を体験し、理解する。関連企業（実習施設）で6日間行う。	1後	45	1				○	○		○	
○			臨床実習Ⅱ	基本的な検査・測定・介助技能を習得する。関連企業（実習施設）で17日間行う。	2後	135	3				○	○		○	○
○			臨床実習Ⅲ	基本的な治療技術を習得する。関連企業（実習施設）で40日間を2回（計80日間）行う。	3前後	630	14				○	○		○	○
合計				68 科目	3045	単位時間		(121 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：在籍学科で開設している科目をすべて合格していること。	1学年の学期区分	2 期
履修方法：学年ごとに開設している必修科目・選択科目を3ヶ年に分けて履修する。	1学期の授業期間	15 週